

保健体育科学習指導案

指導者 小 田 啓 史

日 時 平成 24 年 12月 1 日 (土) 第 3 校時 (13 : 00～13 : 50)

年 組 中学校第 3 学年 2 組 (男子 19 名, 女子 21 名)

場 所 中学校体育館

単 元 バレーボールーみんなで、拾う、つなぐ、打つー

単元について

本単元で扱うバレーボールは、「ネット型」の球技である。バレーボールはコート上でネットを挟んで相対し、身体を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うスポーツである。ゲームのおもしろさは、ネットを挟んで相対した集団が連携して、ボールを落とさせよう落とさせまいとする攻防にある。ゲームでは、自陣のコート内は防御の面からみると相手に得点を与えてしまう危険区域にあたり、自陣のコートから相手のコートへボールを排除しなければならない。一方で、自陣のコート内は攻撃の面からみると得点を得る重要区域にあたり、意図的に攻撃を組み立てラリーを中断させることをめざす。しかし、ボールの接触についてはボレーであるため、ボール操作が大変難しくバレーボールの攻防のおもしろさを感じさせることは容易ではない。生徒にバレーボールのおもしろさに触れさせるためには、コートの広さ、ゲーム参加人数、ルール等簡易化し、意図的な連携を生み出す役割行動に焦点をあてながら、ゲームで要求されるボール操作の条件やその技能を段階的に高めていく必要がある。つまり、ゲームの中で発揮されるパフォーマンスを高めることが学習内容の中核となる。ゲームパフォーマンスが向上する過程で、ラリーがつながったり、意図的なボールのつなぎによって攻撃が成功したりしたときに、チームで達成感や一体感を味わうことができるであろう。多くの人に親しまれ、生徒が大人になっても出会う可能性が高いバレーボールのおもしろさを実感させることができれば、生涯スポーツの観点から学ぶ価値の高い教材となりうる。

本学級の生徒は、ネット型のボールゲームとして、中学校第 1 学年時にバレーボールの授業を経験している。サーブや返球されたボールをキャッチすることを認めた簡易ルールでゲームを行ったため、ボール操作が容易となり、三段攻撃をねらったボールのつなぎ方をチーム内で共有してプレーすることはある程度できる。しかし、オーバーハンドパスやアンダーハンドパスなどのボール操作の技能を十分習得しているとはいえない。また、バレーボールに対する好感度を事前に調査したところ、「大変好き」「好き」と答えた生徒は約 5 割であり、好感度はあまり高くない。「どちらでもない」「きらい」と答えた生徒の多くは「手が痛くなる」「上手にできない」などボール操作の難しさを理由としてあげていた。また、バレーボールで求められる連係プレーや役割行動など、ボールをもたないときの動きの重要性に気づいておらず、バレーボールの攻防のおもしろさを感じることができていない生徒が多いと推察する。

したがって、義務教育最終段階である中学校第 3 学年での指導にあたっては、「ボール操作の技能」と同等に、「ボールを持たない動き方」を学習内容としてゲームパフォーマンスの向上をめざしていきたい。ゲームパフォーマンスを高めるには、リンダ・L・グリフィンらによって考案された戦術アプローチの指導法を参考にする。具体的には、戦術的な気づきを促すために、学習内容となる戦術課題が強調されるように修正されたゲームを行う。ゲーム後に、「プレーを成功させるためには何を行うべきか」「どのようにするか」など発問を投げかけることで戦術的な気づきを高めるとともに、何を練習すればよいかを理解できるようにする。課題練習を行った後、高めた技能や戦術能を実際のゲームで活用する

機会を設定し、練習とゲームを関連づけて「ボール操作の技術」や「ボールをもたないときの動き」の必要性をさらに認識できるようにする。また、「ボール操作の技能」を高めるために、単元を通してパスの基本技術を習得させるドリルゲームを行っていく。単元の最後には、もう一方のクラスとの対抗戦を企画することで、勝敗を競う楽しさや喜びを味わわせたい。

指導目標

1. ポジションの役割に応じたボール操作によって、仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立て、相手側のコートの空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにする。
2. お互いに助け合い教え合ったり、役割分担を協力して行ったりして、共に高まっていくという態度を養うようにする。
3. ゲームの中で発揮される技術、戦術を理解し、自己やチームの課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

指導計画

1. オリエンテーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
2. 攻めを組み立てるゲーム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間
3. 守りを組織化するゲーム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間（本時はその2時間目）
4. チーム課題を解決するための練習とゲーム・・・・・・・・・・・・ 3時間
5. クラスマッチとまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

本時の目標

アタッカーのポジションのときに、アタック準備行動ができるようになる。

学びのつながりの視点

新学習指導要領では、球技の領域において「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」という3つの類型で示されている。この3分類は小学校の3、4年のゲーム領域の段階から高校の球技まで、一貫して採用されたため、各学年段階でどのようなボール運動を位置づけていくのかということが重要な課題となっている。つまり、球技の領域において校種間の連携を意識した学習内容や指導方法を検討することが求められている。

本校の体育科、保健体育科では、球技における「科学知」を「球技の特性やルールに加え、技術・戦術など言葉や構造をもって説明できる知識」、「生活知」を「これまでの学習や経験、授業における練習や実際のゲームを通して培われた勘や感覚として体得された知識」と捉えることとした。Ⅲ期である中学3年生では、Ⅱ期までのネット型における既習事項と高等学校での学びや生涯スポーツへの学びがつながるよう、次のことを意識して指導する。めざすゲームの様相「科学知」と実際のゲームの様相「生活知」のギャップを比較したり、ふり返りを行う際に発問を行ったりして、ゲームにおける「科学知」と「生活知」ののぼりおりを促すようにする。この指導によって、自己の課題を顕在化させたり、戦術的な気づきを高めたりして、課題解決に向けた取り組みを主体的に行うことができるようになるとともに、ゲームパフォーマンスを高めることができ、バレーボールゲームのおもしろさを実感させることができると思う。

準備物

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 (◆ 評価)
<p>1. 前時の確認</p> <p>2. 準備運動 ドリルサーキット(12分)</p> <p>□各ステーションで1分間ドリルを行う。 (移動 20 秒)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直上オーバーパス ・直上アンダーパス ・円陣パス ・三角パス ・フリーボールーレシーブトス(2カ所) 	<p>○進歩したことや課題を確認するために前時の学習カードの記述を紹介する。また, より充実したゲームにするために, 各技術が大切であることを伝え, ドリルの目的を意識して真剣に取り組むことができるようにする。</p> <p>○トスを上げやすい高さ, アタックを打ちやすい高さとして, ネットの高さより 1 ~ 1.5 m以上あげるといふ目安を伝える。上がりにくい生徒に対しては, ひざを使うこと, 場合によってはホールディングをしてもよいことを伝える。</p>
<p>3. 本時の目標確認(5分)</p> <p>□ゲーム中により多くの三段攻撃を行うために, 自分たちが取り入れるべき動き, 重要な動きは何かを VTR を見て考える。</p> <p>□アタッカーはゲーム中にアタックの準備行動を行っていること, そして回り込むように動いていることを知る。</p> <p>4. タスクゲーム(13分)</p> <p>□チーム内で 2 対 2 ビーチラリーゲームをリーグ戦で行う。(3 分×3 試合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コートはバドミントンコートの半分 ・ネット越えたボールのファーストタッチはキャッチとする ・サーブはフリーボール <p>5. メインゲーム(10分)</p> <p>□ルールの確認, 対戦相手, コートを確認する。</p> <p>□4 対 4 のゲームを行う。</p> <p>□サーブレシーブ時のアタックができたかどうかを記録する。</p>	<p>○自分たちのゲームと比較させ, コート内にいる選手が常に動いていることに気づかせる。次に, アタッカーのポジションの選手に注目させ, アタックの準備行動に気づかせる。また, スロー再生することで 回り込みながら動いていることを理解させる。</p> <p>○アタック準備行動ができているかをグループ内で観察するよう伝える。よい動きを積極的にほめることで, ボールへの意欲を高めるようにする。</p> <p>※フリーボール: ネット越しのやさしい, 山なりのボールのこと。</p> <p>○サーブレシーブ時には三段攻撃をねらうこと, ひざを曲げて低く構えることでボールを高く上げることでアタックの準備行動が行いやすくなることを確認する。</p> <p>◆アタッカーのポジションのとき, アタック準備行動をゲームの中で行うことができているか。【運動の技能】</p>

<p>6. 本時のまとめ（5分）</p> <p>□グループ内でお互いによかったプレーを伝え合う。</p> <p>□アタック準備行動を意識することで何か変化はあったかを考え発表する。</p> <p>□グループで協力して、後片付けを行う。</p>	<p>○チームへの所属感，役立ち感をもたせるために，お互いにがんばったことを認め合い，評価し合うよう促す。</p> <p>○ゲームの中では，ボール操作以上に，「ボールを持たないときの動き」が重要性に気づかせていきたい。</p> <p>○巡視しながら，用具の片付けを確認する。</p>
---	---

参考文献

岩田靖「ゲーム・イメージへの誘い込みとその発展」『体育科教育』大修館書店, 2010.

リンダ・L・グリフィン他『ボール運動の指導プログラム－楽しい戦術学習の進め方－』大修館書店, 1999.

文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房, 2008.

文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』東山書房, 2008.

高橋健夫他『新しいボールゲームの授業づくり 体育科教育別冊』大修館書店, 2010.

高橋健夫他『小学校「戦術学習」を進めるフラッグフットボールの体育授業』明治図書, 2009.